

木育

「木育」とは

- 2004年 北海道 林業木材課

「木とふれあい、木に学び、木と生きる」という取り組み

～子どもをはじめとするすべての人が木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むことです（木育の理念）～

- 2006年 林野庁 「森林・林業基本計画」

「子供から大人までの木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義等を学ぶ、木材利用に関する教育活動」

（国産材利用の為に「国民・消費者視点を重視した施策の一環」として定義される）

木育化された教室のイメージ



- ・ 保育所保育指針との関係

つくって、使う「木育」は保育所保育指針の中で取り上げる5つの領域「健康」「人間関係」「環境」「ことば」「表現」のなかの「表現」の領域をベースとしています。また、日本人が暮らしの中で大切にしてきたことが体験を通して育つことをねらいとしています。

「様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと」（保育所保育指針 第一章 総則 3.保育の原理 (1)保育の目標より）

東京おもちゃ美術館 ～赤ちゃん木育広場～

木の床材 木の収納 木の家具 木のおもちゃ等

暮らしの中に「木」をたくさん取入れます

なぜ「木育」か？ ～木育かきくけこ～

か＝環境を想い、環境を守る心を育む木育

→生活の中の「木」と土に立つ「樹」の繋がりを感じ、森を想い環境を大切にすることを養います。

き＝木の文化を学び・伝える木育

→木に触れることで古くから続く日本の木の文化・知識を学びます。

く＝暮らしに木を取り入れる木育

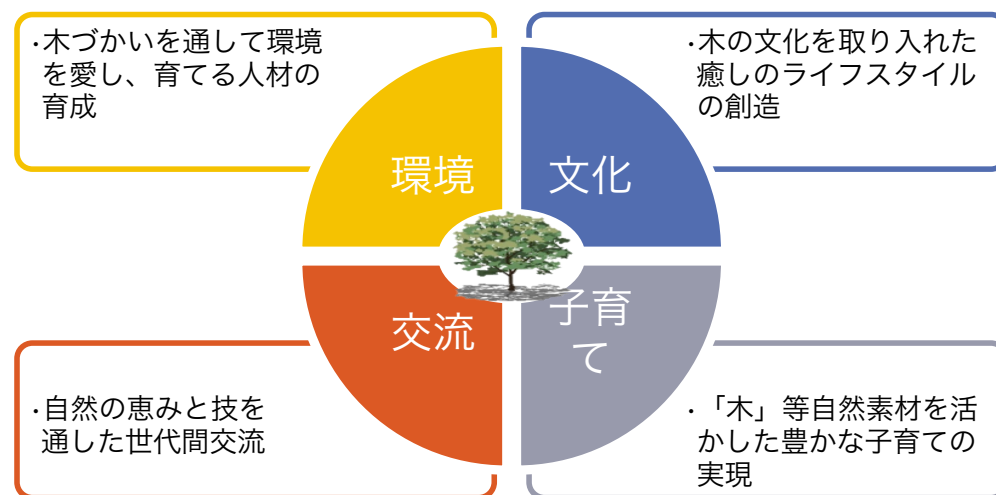
→インテリアや家具・おもちゃなど、木の製品を暮らしの中に取り入れ、自然の恵み、木の良さを暮らしの中に取り入れます。

け＝経験・体験を通し、ものづくりの楽しさ・達成感を育む木育

→木工の経験を通し、手で作り、考えることで木と五感でふれあい、豊かな感性と心を養い想像力を高めます。

こ＝子育て・保育を豊かにする木育

→木を子育て・保育に取り入れることで、子どもには豊かな発達が、大人には癒しがもたらされます



なぜ「木」を使うのか？ ～子どもの発達にとっての木の効果～

内装木質化の効果（埼玉県の小中学校事例）

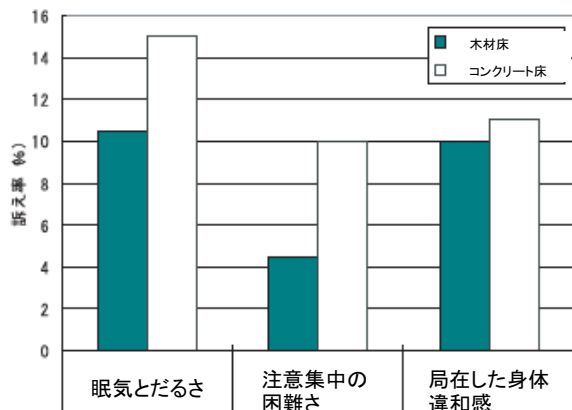
内装木質化された小学校とされていない小学校で比較調査を行いました。その結果、木質化された小学校では、児童が教室空間を広く感じ、ストレスを感じる割合が低いということが分かりました。特に女子ではその傾向が強いことも調査により判明しました。

東京おもちゃ美術館「赤ちゃん木育広場」での経験（内装に多摩産の杉を使用した子育て支援広場）

「赤ちゃんが泣かない」「親が自分の子どもと向き合う時間が長い」「父親の滞在時間が長い」などの効果が見られています。

つくって、使う「木工」を通した木育の効果(岐阜県美濃市の保育園の事例)

2つの保育園で3年間にわたり、同一グループの子どもたち（年少→年長）に対して、継続的に木工を通した木育プログラムを実施しました。その効果を親子関係という視点から分析した結果、双方から関わり度が増し親子関係が深まったということが明らかになりました。



低温環境下における床材質の違いによる自覚症状比較
(天野敦子：木造校舎の教育環境、住木センター、2004)



東京おもちゃ美術館 ～赤ちゃん木育広場～

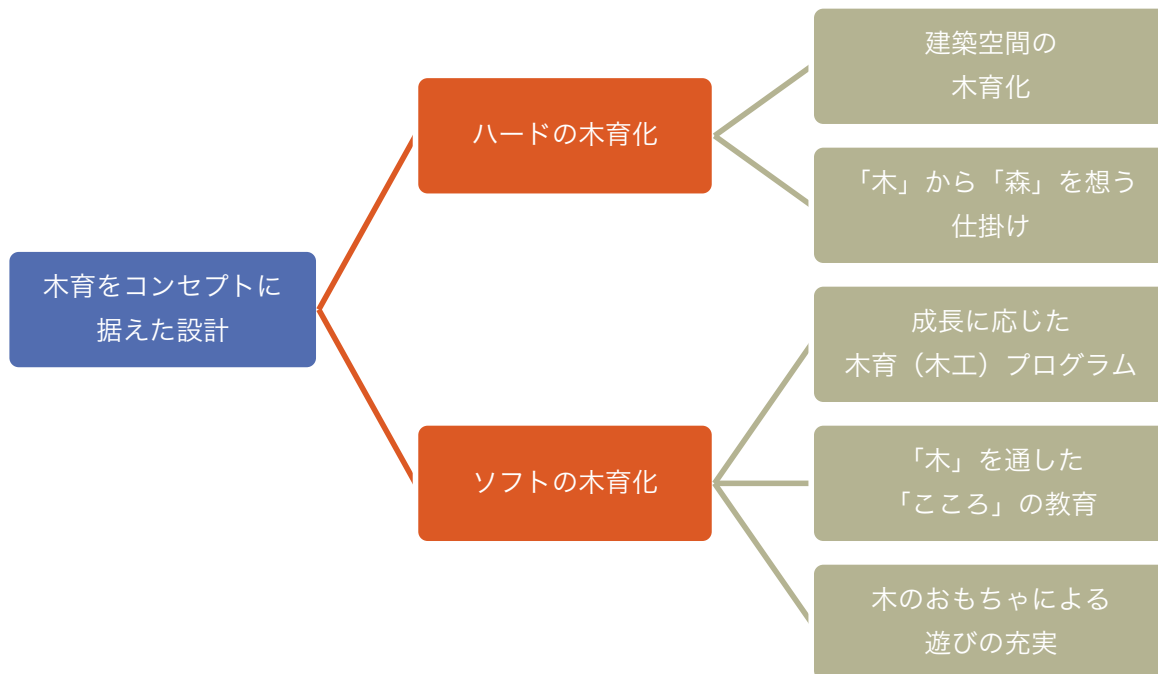
「木育」をコンセプトとした保育園づくり

ハード面（建築物）の木育化

保育園の園舎外装・内装・園庭等すべてを含めた建築空間の木育化の実現をいたします。
単なる内装の木質化に留まらず、園児の五感に訴えかける「木」のあり方を具現化いたします。
また、暮らしの中の「木」から、森のなかの「樹」まで思いを馳せることが出来るような仕掛けを設けます。
園児にとって心地よい園舎。保育士にとって心穏やかに園児に向き合える園舎。
そのような空間を「木育」をコンセプトに作り上げます。

ソフト面（保育プログラム）の木育化

保育の中に、成長に合わせた木育プログラムを導入いたします。
木でつくる表現活動や、様々な表情を持つ木との触れ合いを通して、生きるために必要な非認知能力の育成を目指します。



ハード（建物）の木育化による効果

～内装木質化による心理・情緒・健康面への効果（一部抜粋）～

- 学校施設における木材利用は、子どもたちのストレスを緩和させ、授業での集中力を増す効果がある
- 内装が木質化された校舎では、非木質化校に比べ子どもたちは教室を広々と感じ、校舎内での心地よさや自分の居場所などをより感じて生活していることが伺える
- 木材を利用した教室では、インフルエンザの蔓延が抑制される傾向が見られる
- 木質の床は、結露せず転んで怪我をする子どもが少ない。足にかかる負担も少ない
- 木目の程よいゆらぎの効果で視覚的に快適になる
- 木に触れると金属に比べ、血圧低下が認められ、リラックス効果が高い
- スギの香りは鎮静的に働く

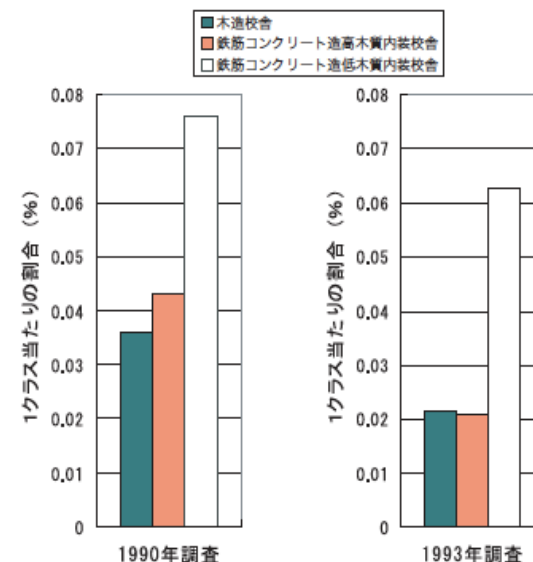


図11 インフルエンザによる学級閉鎖割合

ソフトの木育化による効果

～園児にとっての「木を使った物づくり（木工）」の意義～

木と五感でふれあい、手でづくり、考えるという木工の経験を通して下記5項目が育まれます。

1. 樹と樹の繋がりを感じる力
2. ものを大切にすること
3. 創造力や工夫する力
4. 根気ややる気
5. 協力する心、気づかう心

また、木工においては、手を使い、道具を持ち、構想を描き、材料を準備し、作る過程を考え、道具の使い方を考え、組立てを考え、そして完成への長い工程と段取りが行われます。この過程には手、頭、脳、体全体、気力、体力、筋力など身体すべてを総合的に機能させての活動であり、成果が目に見える「形」となって現れ、達成感や成就感を体感し、子どもの健全な発育に大いに貢献します。

成長に応じた「木育」プログラム（例）

□（例）園児対象木育プログラム

- ・ 3歳児：紙やすりによる木の加工（積み木づくり・ペンダントづくり等）
- ・ 4歳児：げんとうやのこぎりをを用いた木工（箸づくり（食育との連携）・カスタネットづくり（音楽との連携））
- ・ 5歳児：集大成として生活の道具の制作（スプーンづくり（食育との連携）・箱椅子づくり等）

※各年代とも保育士が木工スキルを学び、園児へ指導を行います。保育士の教育は木育の専門家がサポート致します。

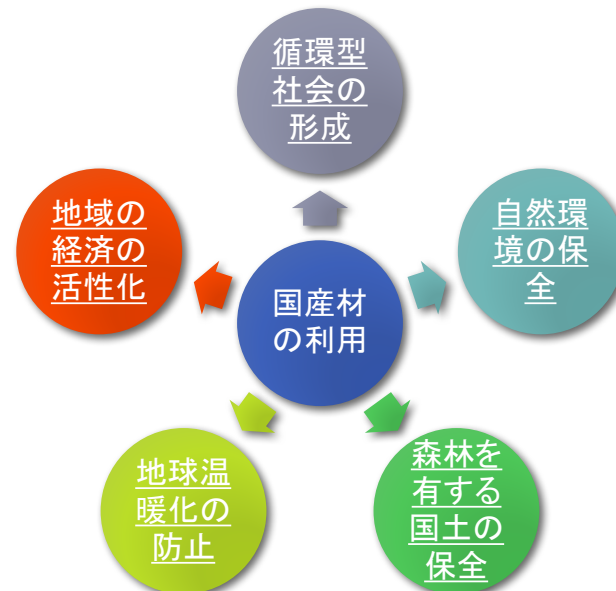
「木材（国産材）」の利用を促進することの社会的意義

環境負荷が少ない木材を材料として利用することにより、持続可能な循環型社会の形成を目指します

木材の利用が促進されることにより、適切な間伐が行われ森林が健全な状態となり

- 「自然環境の保全」
- 「森林を有する国土の保全」
- 「地球温暖化の防止」
- へ繋がります

林業の雇用の創出等、山村その他の地域の経済の活性化に貢献します



「木育」

「木とふれあい、木に学び、木と生きる」

- ・ 木と五感でふれあい、
人や自然に対する「思いやり」「優しさ」を育みます
- ・ 人や地域と共感できる体験を提供します
- ・ 地域の個性を生かした木のある暮らしや文化を提案します
- ・ 人と自然が共存できる社会を目指します

木の持つ力を最大限に引き出し、こども園の設計・子育てに活かして行きます

(参考文献・資料)

「幼児の心とからだを育むはじめての木育 木に触れる・木でつくる・木で遊ぶ保育」

認定NPO法人日本グッド・トイ委員会[監修] 松井勅尚[編書]

「赤ちゃんからはじめる木のある暮らし」東京おもちゃ美術館

「木育の本」煙山泰子/西川栄明

「木育のすすめ」山下晃功・原知子

国土交通省HP 東京おもちゃ美術館HP